

伊賀市・笠置町・南山城村

水と歴史でつながる圏域

～「定住自立圏構想」に基づき、

3市町村で連携した取り組みを進めていきます～

【問い合わせ】 総合政策課 ☎22-9620 FAX22-9672

「定住自立圏構想」とは？

現在、地方では人口減少が加速し、単独の市町村で医療や公共交通などの生活機能を維持・確保することが困難になりつつある

← このような課題を解決するために

「定住自立圏構想」

同じ生活圏の市町村が連携して、医療・産業振興・公共交通などの生活機能を全体で確保し、住民の定住につなげるための取り組み

伊賀市は近隣市町村の「中心市」

「定住自立圏構想」では、買い物や医療などの生活に必要な機能があり、近くの市町村に住む人たちもそうした施設を利用している市を「中心市」と呼びます。

伊賀市は、平成27年6月24日に「中心市宣言」を行い、近隣の自治体である京都府笠置町・南山城村と連携し、医療や交通など生活に必要な機能を守るために話し合ってきました。

そして、昨年10月4日に合同調印式を開催し、「伊賀・山城南定住自立圏の形成に関する協定」を結びました。



▲南山城村村長(写真左)と笠置町町長(写真右)との合同調印式の様子

笠置町・南山城村って どんなところ？

伊賀市・笠置町・南山城村は、三重県と京都府の県境にあり、木津川が3市町村を流れています。また、藤堂藩にゆかりがあり、歴史的にもつながりが深い地域です。

そのため、従来から買い物・医療・通勤など、暮らしに欠かせない生活面における人の流れや住民相互の交流があります。



伊賀市・笠置町・南山城村は 「水と歴史でつながる圏域」

連携の基本イメージを「水と歴史でつながる圏域」として、次の2つの視点で取り組みを進めます。

▼圏域でつながり、暮らしの安心を支える
医療体制や子育て支援、防災体制を充実させ、働く場所の確保、地域公共交通体制の構築などに取り組み、住み続けたい地域で暮らせる圏域をめざします。

▼活発な交流で、にぎわいを創出する

伊賀市・笠置町・南山城村が持つ地域資源や地域に暮らす人材の交流などにより、圏域全体で多様な資源の魅力を高め、にぎわいの創出をめざします。



伊賀・山城南定住自立圏 共生ビジョン



共生ビジョンとは、圏域のめざす将来像や具体的な取り組みをまとめたものです。

伊賀・山城南定住自立圏共生ビジョンは、2017(平成29)年度から2021(平成33)年度までの5年間の計画として、毎年度見直しを行うこととしています。

ここでは、その主な取り組みを次の3つの分野に分けて紹介します。

①生活機能の強化

医療 健康・福祉 教育
産業振興 環境 防災



- 一次・二次救急医療体制の充実・確保を行い、圏域住民に安心した医療を提供する
- 救急医療や応急処置などに関する相談に24時間対応する電話相談事業を圏域へ拡大する
- 結婚を希望する人に「出会い」から「結婚」へのきっかけづくりなどをサポートし、若者が安心して住み、子どもを生み育てる環境の充実をめざす
- 圏域で連携した観光施策や地場産業の振興を進め、誘客や地場産品の販路拡大をめざす
- 災害時の正確な情報共有や圏域内での相互応援体制を整備する

②結びつきやネットワークの強化

公共交通 ICT活用 交通インフラ
地産地消 内外交流

○通勤・通学・買い物・通院などを考慮した地域の公共交通網や道路の整備を進める

○圏域内への移住希望者が必要とする情報の提供や支援を行うための相談窓口を設置し、圏域全体で情報発信に取り組む



③圏域マネジメント能力の強化

人材育成・交流 人材確保

○圏域内の職員の能力や資質の向上を図るため、合同で研修会などを実施する

○外部有識者からの助言を得ながら、政策課題を研究・検討する



今後は、それぞれの地域が持っている都市機能や地域資源など、お互いの強みを持ち寄って弱みを補い合い、これまでのつながりや結びつきをより強め合うことで、魅力ある圏域を作り出すことをめざします。

◆笠置町

人口 1,421人 面積 23.52km²

〜京都府で最も小さい町〜

京都府の最南端に位置する、府内で最も小さい町で、歴史と美しい自然が調和する町です。後醍醐天皇の行在所として知られ、当時を偲ぶ史跡が数多く残っています。

日本の桜名所百選に選定されている約3,000本の桜が春を告げ、秋には、笠置山が錦に染まり、四季を通じて豊かな自然が楽しめます。



◆南山城村

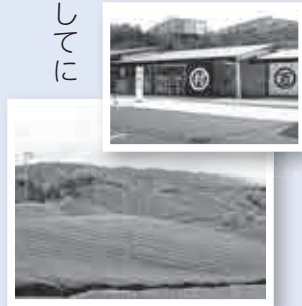
人口 2,837人 面積 64.11km²

〜京都府で唯一の“村”〜

南は奈良県、北は滋賀県、東は三重県に隣接しており、豊かな自然と里山の風景を残した、京都府で唯一の“村”です。

雄大な木津川と緑豊かな茶畑が広がり、良質な宇治茶の主産地として知られています。

また、今年4月に道の駅がオープンし、多くの人が訪れる交流の場としてにぎわっています。



※人口は2017(平成29)年4月1日の住民基本台帳人口、面積は2015(平成27)年の国勢調査の数値です。